

職場への労働安全衛生マネジメントシステムの導入がもたらす 労働安全衛生活動への影響について

甲 田 茂 樹*1*2 佐々木 毅*2 渡 辺 裕 晃*3 鶴 田 由 紀 子*3
伊 藤 昭 好*4 原 邦 夫*5 堤 明 純*6 山 口 秀 樹*3 丸 山 正 治*3

多様な業種があり中小規模の職場を抱える某地方自治体職場（O市）に労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の導入を試みた。約2,000名の職員からなり、10の安全衛生委員会を組織するO市は、2007年6月にOSHMS導入の方針を決定した。各委員会から委員2名、事務局1名の計3名の参加者に対し、約2ヶ月おきにOSHMS概要（基礎）研修を1回とOSHMS導入研修を4回行った。研修は講義の他、幾つかのモデル職場を設定しアクションチェックリストを携え職場巡視し、グループ討議により職場環境等の改善提案を論議するという参加型アプローチで行った。2008年8月からは各職場の安全衛生上の課題を個別に抽出・評価しそれらの対策を自らで考えるためのリスクアセスメント研修を全ての委員会の職場巡視をしながら実施すると共に、メンタルヘルスに関する研修としてストレス・リスクアセスメント研修を2回実施した。同時期に安全衛生活動の評価法についても試行し、2009年10月からシステム監査研修を全ての委員会において行った。また、ほぼ全ての職場でリスクアセスメントの研修が終了して以降に、提案された職場の改善・対策事例は2年間で96良好事例と127改善事例に及び、職場における安全衛生活動が自発的に動き出したことが観察された。

2010年3月にO市固有のOSHMS実施要綱が策定され、事業主（市長）によって安全衛生方針が表明され、開始から3年以内にOSHMSの導入が完了し、職場の安全衛生活動への定着を図るフェーズへと移行した。

キーワード：労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント、ストレス対策、安全衛生活動評価、職場の良好事例・改善事例

1 はじめに

労働安全衛生活動を効果的に行うために、職場に労働安全衛生マネジメントシステム（Occupational Safety and Health Management System；以下OSHMSとする）を導入し活用することが提案され、その結果、労働災害発件数の減少¹⁾、あるいは生産性やサービスが向上することが期待されている。ところが、中小規模事業場では人員不足等が原因で労働安全衛生活動が積極的に行われ難いことから、OSHMSの導入自体が困難であるといわれており、労働安全衛生上の課題となっている。

地方自治体は事務系職場の他に、清掃、学校給食、保健、福祉、医療、消防、上下水道など多様な業種を抱える中小規模の職場の集合体とみなすことができる。各々の職場におけるハザードの種類は多種多様で、数年サイクルで実施される人事異動があることから安全衛生に関与する人材育成も難しく、OSHMSを導入することは容易ではないと思われる。しかし、地方自治体の中には安全衛生活動を積極的に行っている事業体もあり²⁾、そのような自治体であればOSHMSの導入も可能ではないかと思われた。

そこで我々は、異なる業種や事業場規模の違いをもつ職場を含む某地方自治体を対象としてOSHMSの導入を試みた。本稿ではその取り組みについて紹介する。

2 実施事項

1) 対象集団

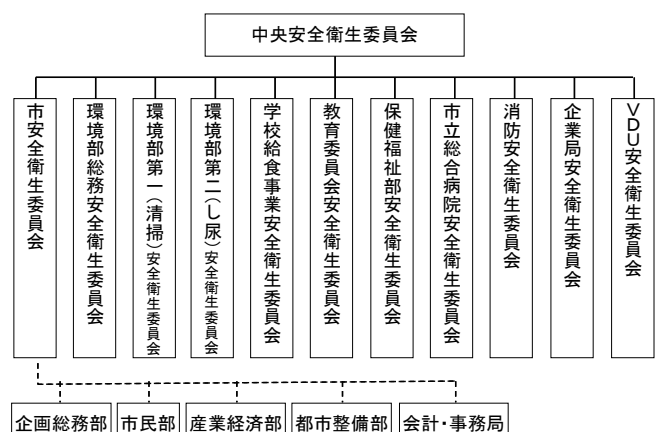


図1 O市の安全衛生委員会の設置状況

以前より積極的な安全衛生活動を日常的に行ってきたO市（2008年度現在、人口約13万人、正規・非正規職員数約2,000人）を対象とした。O市の安全衛生管理体制は部署や仕事内容を考慮して10の安全衛生委員会が

*1 労働安全衛生総合研究所研究企画調整部。

*2 有害性評価研究グループ。

*3 大牟田市企画総務部職員厚生課安全衛生担当。

*4 産業医科大学産業保健学部。

*5 帝京平成大学地域医療学部。

*6 産業医科大学産業医実務研修センター

設置され、それと別にVDU (Visual Display Units) 委員会も設置され、それらを中央安全衛生委員会が統括する (図1)。

2) OSHMS 概要・導入研修

2007年6月に中央安全衛生委員会においてOSHSMS導入する方針が決定され (図2), それを3年間のうちに達成することを目標とした。

2007~8年度に, 10の安全衛生委員会からそれぞれ委員2人と事務局1人の計3人 (以下安全衛生委員会関係者) に参加してもらい, OSHMS概要 (基礎) 研修を1回と導入研修を4回実施した (図2)。導入研修では講義の他, 幾つかのモデル職場を設定して参加者全員でアクションチェックリスト^{3,4)}を携え巡視した。

(1) OSHMS 概要 (基礎) 研修 : 2007年9月

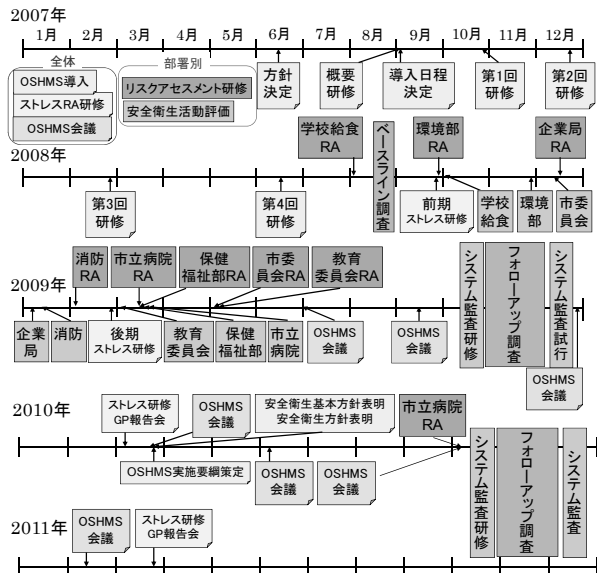


図2 OSHMS 導入とリスクアセスメント研修の実施スケジュール

OSHSMSを導入する理由や必要性, 利点について, 国際的潮流, OSHMSとILO第161号条約との比較, PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルとISO14000との共通性等の解説を交えながら概説し, 他所での導入事例についても紹介した。

(2) 第1回OSHSMS導入研修 : 2007年10月 (表1)

第1回は清掃工場 (可燃ごみ燃料化施設) において実施した。オフィス用並びに工場用の職場改善のためのアクションチェックリストの使用方法を説明し, 実際にそれを用いて職場巡視をして, その結果についてのグループ討議と発表会を行った。講義のテーマは「労働安全衛生マネジメントシステムと小さなPDCAサイクル」「労働安全衛生組織と安全衛生方針」で各々の講義の後にグループ討議と発表会を行った。最後に実践課題として「1. リスクアセスメントの実施とハザード・リスク・対策の

9:30-9:45	研修オリエンテーション (15分)
9:45-9:55	自己紹介(10分)
セッション1 :	
9:55-10:15	チェックリスト紹介 (20分)
10:15-10:30	職場紹介・巡視オリエンテーション (15分)
10:30-11:20	職場巡視 (50分・含む小休憩)
11:20-12:00	グループ討議 (40分)
12:00-12:30	発表・全体討議 (30分)
12:30-13:20	昼食休憩 (50分)
セッション2 :	
13:20-13:50	講義 (労働安全衛生マネジメントシステムと小さなPDCAサイクル, 30分)
13:50-14:20	グループ討議 (30分)
14:20-14:50	発表・全体討議 (30分)
14:50-15:00	小休憩 (10分)
セッション3 :	
15:00-15:30	講義 (労働安全衛生組織と安全衛生方針, 30分)
15:30-16:00	グループ討議 (30分)
16:00-16:30	発表・全体討議 (30分)
16:30-16:50	まとめ・実践課題説明 (20分)

表1 第1回OSHSMS導入研修のスケジュール

一覧表の作成」「2. 労働安全衛生組織図の作成」「3. 安全衛生活動における役割表の作成」「4. 労働安全衛生方針の作成」「5. 改善行動をPDCAサイクルでフォロー出来るような書式の作成」の5つを課し, 次回研修で報告するよう求めた。

セッション1 :	
9:30-10:20	課題1報告 (60分)
10:20-11:00	職場視察実習 (事業場説明含む, 40分)
11:00-11:10	小休憩(10分)
11:10-11:40	グループ討議 (30分)
11:40-12:10	発表・全体討議 (30分)
12:10-13:00	昼食休憩 (50分)
セッション2 :	
13:00-14:00	課題2~5報告 (60分)
14:00-14:30	グループ討議 (30分)
14:30-15:00	発表・全体討議 (30分)
15:00-15:10	小休憩 (10分)
セッション3 :	
15:10-15:40	講義 (安全衛生目標と年間計画の策定, 実施と記録, 30分)
15:40-16:10	グループ討議 (30分)
16:10-16:40	発表・全体討議 (30分)
16:40-17:00	まとめ・実践課題説明 (20分)

表2 第2回OSHSMS導入研修のスケジュール

(3) 第2回 OSHMS 導入研修：2007年12月（表2）

第2回は事務系職場において実施した。前回の実践課題1の報告発表会の後、オフィス用職場改善のためのアクションチェックリストを用いて職場巡視をしてその結果についてのグループ討議と発表会を行った。前回の実践課題2～5の報告発表会を行い、その報告を題材としたグループ討議と発表会を行った。講義のテーマは「安全衛生目標と年間計画」「実施と記録」で、講義の後にグループ討議と発表会を行った。最後に実践課題として「6. リスクアセスメント表のブラッシュアップ」「7. 中長期目標の作成」「8. 年間計画表の作成」「9. 事故・災害報告書の作成」「10. 安全衛生委員会の議事録の記録」の5つを課し、次回研修で報告するよう求めた。

(4) 第3回 OSHMS 導入研修：2008年2月（表3）

第3回は上水道水質試験室（化学物質取扱職場）において実施した。前回の実践課題6の報告会の後、講義「化学物質のリスクアセスメント」をし、職場での有害化学物質の安全な取り扱いのためのアクションチェックリストを用いた職場巡視とその結果についてのグループ討議と発表会を行った。前回の実践課題7～10の報告発表会を行い、それを題材としたグループ討議と発表会を行った。講義のテーマは「マネジメントシステムの評価と改善」で、講義の後にグループ討議と発表会を行った。最後に実践課題として「各自の職場の労働安全衛生管理規定の見直しと改定案」「必要文書リストアップ現存するものと作成予定のもので」の2つを課し、次回研修で報告

するよう求めた。

(5) 第4回 OSHMS 導入研修：2008年6月（表4）

最終回は市庁舎会議室において実施した。前回の実践課題11～12の報告発表会を行い、「本研修を通じた OSHMS 導入の準備の過程で職場に生じた変化」についてグループ討議し発表してもらった。「メンタルヘルス対策」をグループ討議に取り上げ、10の安全衛生委員会ごとに「今後実践可能なアクションプラン」を作成してもらい、導入研修を終了した。

O市 OSHMS 導入研修 第IV期分 スケジュール	
セッション1:	
13:15-13:45	グループ討議 (30分)
13:45-14:15	発表・全体討議 (30分)
セッション2:	
14:15-14:45	グループ討議 (30分)
14:45-15:15	発表・全体討議 (30分)
15:15-15:30	小休憩 (15分)
セッション3:	
15:30-16:15	グループ討議 (45分)
16:15-16:45	発表・全体討議 (30分)
16:45-17:00	まとめ

表4 第4回 OSHMS 導入研修のスケジュール

O市 OSHMS 導入研修 第III期分 スケジュール	
セッション1:	
9:30-10:20	課題6報告 (50分)
10:20-10:50	講義 (化学物質のリスクアセスメント、30分)
10:50-11:00	小休憩(10分)
11:00-11:30	職場でのリスクアセスメント実習 (水質試験室、30分)
11:30-12:00	グループ討議 (30分)
12:00-12:30	発表・全体討議 (30分)
12:30-13:20	昼食休憩 (50分)
セッション2:	
13:20-14:20	課題7～10報告 (60分)
14:20-14:50	グループ討議 (30分)
14:50-15:20	発表・全体討議 (30分)
15:20-15:30	小休憩 (10分)
セッション3:	
15:30-16:00	講義 (マネジメントシステムの評価と改善、30分)
16:00-16:30	グループ討議 (30分)
16:30-16:50	発表・全体討議 (20分)
16:50-17:00	まとめ・実践課題説明 (10分)

表3 第3回 OSHMS 導入研修のスケジュール

3) リスクアセスメント研修

OSHMS 導入研修を終えた後、2008～9年度には各職場の安全衛生上の課題を個別に抽出・評価しそれらの対策を自らで考えるようにするためのリスクアセスメント



図3 リスクアセスメント研修風景
上中段4枚は職場巡視，下段2枚はグループワーク

研修（以下、RA 研修とする）を、安全衛生委員会関係者や管理監督者等を対象として10の安全衛生委員会ごとに実施した（図2）。なお、環境部 RA 研修は、総務、第一（清掃）、第二（し尿）の3つの安全衛生委員会の職場を含んでいる。RA 研修では、まず職場巡視を行いながら必要に応じ、照度、気温、湿度、騒音、酸素や二酸化炭素、一酸化炭素濃度等を測定するとともに、整理・整頓具合や道具等の配置や作業台の高さといった人間工学的要因等に関わる各職場の職業リスクを写真撮影した。その後、リスクアセスメントに関する講義を行い、リスクアセスメントの方法について理解を深めた上で、職場巡視で収集した情報や質問紙調査結果をもとに、グループワークでリスクアセスメントの実習を行った（図3）。各 RA 研修の詳細は以下の通りである。

- (1) 学校給食 RA 研修：2008年8月
職場巡視（ドライ・ウェット調理場）とチェック／安全作業マニュアルのブラッシュアップ／職場の作業環境要因のリスク評価
- (2) 環境部 RA 研修：2008年9月
職場巡視（清掃収集現場／可燃物・不燃物処理施設／し尿収集現場→し尿処理施設）／職場の RA の考え方・手法／安全衛生活動に RA の考え方を導入
- (3) 企業局 RA 研修：2008年12月

職場巡視（水源センター／ポンプ場／下水処理場／水質試験室）とチェック／アクションチェックリストの活用（巡視先職場と自身の職場）

- (4) 消防 RA 研修：2009年2月
職場巡視（事務室／通信司令室／消防隊／救急隊／仮眠・休憩室／装備設備／レスキュー隊／訓練施設・訓練塔）／職場のリスクの把握と評価／安全衛生活動に RA の考え方を導入
- (5) 市立病院 RA 研修：2009年3月
職場巡視（病棟／外来／薬局／放射線／検査室／事務室）／医療職場での安全衛生活動の活性化・RA／ストレス対策
- (6) 保健福祉部 RA 研修：2009年3月
職場巡視（保育所／事務系職場／検査室）／作業・収納スペース不足／配線整理／照度不足／窓口対応（クレーム）等についての評価と対策の検討
- (7) 市安全衛生委員会・教育委員会（本庁・事務部門）RA 研修：2009年5月
職場巡視（学校／事務系職場）／リストアップした課題に関して改善対策を検討

4) ストレス・リスクアセスメント(RA)研修

各職場において共通して要望が強かったメンタルヘル

表5 職場環境等と心理的・身体的ストレス反応

	事務系							現業系							
	企画総務部	市民部	産業経済部	都市整備部	会計・事務局	環境(総務)	教育委員会	環境(清掃)	環境(し尿)	学校給食	保健福祉部	総合病院	消防	企業局	
	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	心身	
作業環境															
1) 不快な臭いがする			●●			●●	●●							●●	▲
2) 騒音がひどい		●				●●					▲●	●●	▲▲	▲●	●●
3) ほこりがひどい	●▲	●●	●		●						●●	●●			●●
4) 照明が明るい・まぶしい					●●										●
5) 照明が暗い		▲	●		●●				▲		▲	●●	●▲	▲●	●●
6) 温度が高すぎる	●●	●●	●●	▲	▲●						▲●	●●	▲▲		●
7) 温度が低すぎる					▲	●▲					▲●		▲▲		
8) 湿度が高すぎる	●		●●	▲	●●						●●	●●			●
9) 湿度が低すぎる			●●	▲▲	▲●						▲				●
10) 危険な状態(物質や動作)への無配慮	●	●●								●	●●	●●	●●		●●
作業内容・作業姿勢															
1) 重量物(人・物)の持ち上げが多い					▲●						●●	●●	●		▲
2) コンピュータ作業が多い	●●	●▲	●▲								●		▲		●●
3) 有害物(血液・放射線を含む)の取扱い		●●			▲▲								●●	●	
4) 自動車の運転が多い											●	●●	●▲		●
5) 同じ作業の繰り返し			●●		●●	●			▲		●●	●●	●		
6) 休憩なく長時間作業が多い	▲●	●●	●●	●●	●●				●		●●	●●	●●	●●	●●
7) 同一姿勢での作業が多い	▲●	▲●	▲		▲●				▲●	●●	●●		●●		●●
8) 座位姿勢での作業が多い		●	▲●								●●			▲	●●
9) 立位姿勢での作業が多い					●●							●●	●●		●●
10) 中腰姿勢での作業が多い					●●						▲▲	●●	●●		●●
11) 前屈姿勢での作業が多い					●●						▲	▲	●●	●●	●●
12) 動き回ることが多い					●●	▲					●●	●●	●		▲
13) レイアウト上の問題がある	▲●	●			▲▲	●●					●●	●●	●●	●●	●●
14) 机や作業台の高さ・スペースが不十分	●●	●●	▲		●▲				▲		●●	●●	●●		▲●●
15) 必要物の取り出し等の配慮が不十分	●●	●▲			▲				●▲	●●	●●	●●	●●		●●

心: 心理的ストレス反応, 身: 身体的ストレス反応
 職場環境等についての訴えがある者の得点が、有意 (p<0.05) に高い: ●, 有意傾向 (p<0.1) で高い: ▲.
 各職場のリスク要因を漏らさず見つけ出すため、有意傾向 (p<0.1) についても表示した。

本表は、参考文献 7) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 鶴田由紀子, 伊藤昭好, 原邦夫, 堤明純, 山口秀樹, 丸山正治. 自治体職場への OSHMS 導入—導入途上の状況と今後の展望—. 労働安全衛生研究. 2010 ; 3 : 11-16. の表 2 を改変

スに関する研修を参加型ストレス対策^{5,6)}と位置づけて実施した。

(1) 前期ストレス RA 研修：2008 年 9 月

内容は、参加型職場環境改善によるストレス対策、ファシリテータの役割とグループワーク、職場環境とストレス（O 市アンケート結果から）、各職場での職場環境についての良好事例・改善点のリストアップ、でグループ討議と発表を交えて行った。職場環境とストレスは、職場環境等（作業環境 10 項目、作業内容・作業姿勢 15 項目）に対する主観的回答（そう思う、そう思わない）と職業性ストレス簡易調査票における心理的・身体的ストレス反応得点との関連を示したもので（表 5）⁷⁾、自らの職場のストレス要因を把握するためのヒントとして活用してもらった。

(2) 後期ストレス RA 研修：2009 年 2 月

内容は、各職場からの良好事例・改善提案の報告、某事業所における職場改善・対策の取り組みの紹介、各委員会での今後のアクションプランの作成でグループ討議と発表を交えて行った。

(3) グループリーダー養成研修：

前期と後期ストレス RA 研修の間に、職場環境改善によるストレス対策をよりスムーズに進めるために、委員会ごとにグループリーダー養成研修と職場グループミーティングを実施した。これは O 市の産業保健スタッフが自ら行った研修である。内容は、職場に存在するストレス要因について、グループ討議による参加型ストレス対策の進め方（ツールの使い方）、事例を用いたグループ討議、メンタルヘルスアクションチェックリストを使った

グループミーティング、である。

5) 安全衛生活動評価～システム監査

各職場の安全衛生活動の状況を把握するための聞き取り調査を 2008 年 10 月～2009 年 3 月に実施した。それは日本産業衛生学会 産業保健活動評価委員会が作成した産業保健活動評価表（試行版）⁸⁾を若干改変して用いた（表 6）。

この活動評価は 2009 年 12 月と 2010 年 12 月のシステム監査に組み込み、継続的に実施している。

3 実施後

(1) OSHMS 導入

2010 年 3 月に OSHMS 実施要綱が策定され、事業主（市長）によって安全衛生方針が表明され、OSHMS の導入が完了した。

(2) リスクアセスメント研修前後での気分の改善⁹⁾

グループ討議を組み込んだ参加型のリスクアセスメント研修の気分への影響を評価するため、予備的調査として事務系職場の者 41 名を対象として、不安・緊張、抑うつ、怒り・敵意、活気、疲労、混乱の 6 つの尺度で構成される POMS（Profile of Mood States）¹⁰⁾を用い、研修前後で参加者の気分の変化を比較した。その結果、研修直後では研修直前に比して、抑うつ、怒り・敵意、混乱が有意に減少した（図 4）。

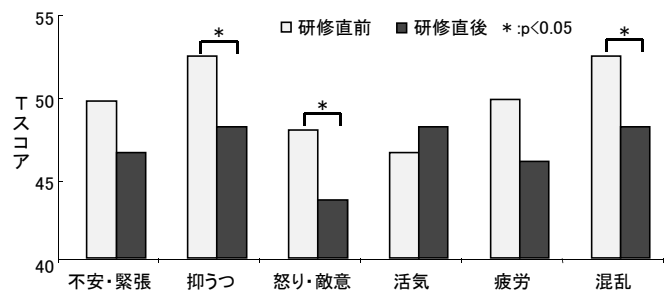


図 4 研修前後での POMS スコアの変化 (N=41)

本図は、参考文献 9) 渡辺裕見, 甲田茂樹, 佐々木毅, 伊藤昭好, 原邦夫, 堤明純. 自治体職場における職場環境改善を通じた参加型ストレス対策の試み. 産業ストレス研究. 2010; 17: 287-95. の図 7 を改変


(3) ストレス RA 研修グッド・プラクティス報告会：2010 年 3 月, 2011 年 3 月

研修で報告された良好事例と改善提案の中から、様式を統一した良好・改善事例シートとして提出してもらった（図 5）。これについて、職員の安全衛生活動へのモチベーション向上と維持を目指した取り組みとして、グッド・プラクティス賞を投票により最優秀賞, 優秀賞 2 つ, 敢闘賞 3 つを選定し、表彰した。


安全衛生活動評価表*	
評価尺度（項目数）	
A. 安全衛生基本計画と達成計画	(8)
B. 組織と連携	(9)
C. 危険有害要因の把握	(6)
D. リスク評価	(4)
E. リスク対策	(5)
F. リスクコミュニケーション	(5)
G. 教育訓練	(4)
H. 文書・記録と個人情報保護	(4)
I. 緊急事態への対応	(3)
J. 安全衛生活動の監査と継続的な改善	(2)
↓	
以上の 50 項目に参加に関する 2 項目を追加し、2 項目を削除した。さらに、方針と目標・計画 (8)、組織化 (10)、リスク評価 (14)、リスク低減 (16)、評価と改善 (6)、参加 (10) の 6 つの評価軸を設け、改善が必要 0 点、改善余地あり 1 点、改善は不要 2 点、該当せず 2 点とし、評価軸ごとにスコアリングした。	
*：日本産業衛生学会 産業保健活動評価委員会(2003)産業保健活動評価表（試行版）。産業衛生学雑誌 45(4), A82-A85. を若干改変	

表 6 安全衛生活動評価表

職場の改善事例シート	
職場の改善事例	
所属	労働安全衛生部 第一労働管理課
報告日	平成 22年 11月 5日 締切日 〇〇 〇〇
改善実施→改善の中心(個人) / 改善実施→改善が必要な事項の概要	
* 荷台の塗装	
改善実施→改善を実施した経緯や目的 / 改善実施→改善が必要な事項の経緯や目的	
* パネル車と両合積りの色が同色であったため、作業員が分かりづらく危険であった。	
改善実施→改善内容 / 改善実施→改善が必要な事項の具体的な内容	
* 作業員がはっきりと分かるように、荷台の色を変更して鮮明な色に交換した。	
上記の改善内容に該当する職域を下の欄に書き、あてはまるものに○印をつける (機械装置) (作業編成) (作業環境) (人間工学) (情報伝達) (福利厚生)	
改善実施状況 全ては多岐に亘り、○をつけ、再発を防止して欲しい	
改善実施日時	〇〇年 〇〇月 〇〇日
改善に要したコスト・時間	コスト () 時間 ()
評価者	実施した改善の評価
評価後の課題や取り組みの内容	



改善前



改善後

※掲載が不適当な場合は、このページをコピーして使用してください。

図5 ストレス RA 研修の良好・改善事例シートの例

(4) 成果物としての「職場環境等の良好／改善事例集」の公表

3年間のプロジェクト研究期間中の最終の2年間では、OSHMSが導入されている安全衛生委員会単位で実施されている労働安全衛生上の良好事例や改善事例を年度末の事例検討会で検討・吟味されたものが、本プロジェクト研究の成果物「職場環境等の良好／改善事例集」「職場環境等の良好／改善事例集Ⅱ」(図6)として公表された。



図6 公表された「職場環境等の良好／改善事例集」(2010)

これらの良好・改善事例はおおよそ「設備・機械」「作業環境」「作業編成」「人間工学」「情報伝達」「福利厚生」の六つの領域¹¹⁾に分類された(表7)。その詳細を概括していくと、「設備・機械」「作業環境」「作業編成」「人間工学」の領域に関わる良好／改善事例は、従来の作業環境管理や作業管理に属する安全衛生活動として実践されてきたものであるが、今回提案された改善対策は複数の

職場の改善対策をめぐる六つの領域

- 1. 設備・機械に関わる領域**
老朽化した庁舎や作業場所の改修など
- 2. 作業環境に関わる領域**
照明環境の改善、温熱対策、騒音対策、有害物対策、全体換気・局所排気装置、感染症対策、ワクチン接種、保護具の正しい活用法
- 3. 作業編成に関わる領域**
交代勤務の組み方の工夫、休憩時間・食事時間の確保、労働時間の制限、ばく露時間の制限、過重労働の制限、一人勤務・作業の見直し、単調ないしは過重な作業内容の見直し
- 4. 人間工学に関わる領域**
整理・整頓、安全な通路の確保、作業台の改善、ラベリング、多段式ラックの活用、椅子の活用、不自然な作業姿勢を減らす、長時間の姿勢保持を減らす、危険動作をなくす、道具等の配置の見直し、重量物の取扱いを減らす、人力での取扱い重量の制限、持ちやすい取っ手やジグの活用、適切な保管庫の活用
- 5. 情報伝達に関わる領域**
労働者の教育・研修(安全衛生・業務一般)、KYT、情報入手・促進、MSDSの入手と活用、安全作業マニュアル、必要な情報の共有や加工、ツール・ボックス・ミーティング、緊急時対策の周知や徹底、利用者へのわかりやすい情報表示や提供、トラブル時の対応マニュアルの作成と周知、わかりやすい危険の表示、上司や同僚からのフォロー体制の確立、各種ハラスメント対策、外部の相談体制の確立、職場でのコミュニケーションの促進、新しい作業・技術へのわかりやすい解説や対応
- 6. 福利厚生に関わる領域**
休憩室の設置、仮眠室の設置、洗面・洗身施設の設置、清潔な食事スペースの確保、個人ロッカーの設置、代替要員の確保、健康診断の受診機会の確保、相談窓口の設置、非常口の設置、受動喫煙の防止

表7 六つの領域の改善対策事例の詳細

リスクに対応する多面的な改善対策が多く提案されていた。その中でも「情報伝達」に関わる改善対策として、安全作業マニュアルや安全衛生教育用ビデオなどが提案されており、労働者の安全衛生研修にはもちろん、新任者や派遣嘱託職員への安全衛生研修の教材としても優れたものがある。図7に示した改善事例はし尿の清掃職場から提案のあった安全衛生教育用ビデオで、し尿収集作業を映像と解説によって安全・注意・危険の3ランクに分けて解説するもので優れた事例であり、2011年度の日本産業衛生学会産業衛生学会生涯教育委員会の第2回GP奨励賞を受賞した¹²⁾。ちなみに、この職場では公務災害の発生件数は8件→4件→1件と年々減少している。

4 おわりに

以上のように某地方自治体においてOSHMSの導入を試み、2007年6月にOSHMSを導入するという方針の決定がなされてから3年以内の2010年3月にその目標は達成された。なお、この取り組みによる成果や効果は次稿で紹介する。



図7 し尿処理職場安全衛生教育用ビデオ

二段目の緑のテロップは「安全な状態」の作業、三段目と四段目は黄色と赤のテロップは「注意の状態」と「危険の状態」の作業であることを物語っている。

今回の取り組みの特徴は、OSHMS 導入という全職場に統一的なシステムの導入時に、個々の職場でのリスクアセスメントや、昨今多くの職場において課題となっているストレス対策を組み入れながら進捗させたことではないかと考えている。このような方策により、全職場の課題を個々の職場の課題に掘り下げることができ、職員が OSHMS 導入の本質を理解しやすくなったのではないかと考えられる。しかし、O 市は以前から労働安全衛生活動が積極的に行われてきたという背景があったことも、わずか3年で導入に至ることができた要因にあることは否定できない。また、安全衛生委員会関係者の異動や交代により、安全衛生活動が活発化あるいは停滞化したような側面も垣間見られた。

今後は各職場での OSHMS の自発的運用と定着を図れるよう観察を続けていく予定である。

本稿で紹介した取り組みの資料や、その成果物は当研究所の HP にて「OSHMS の導入・定着による職場環境等の改善対策」¹³⁾として公開しているので、興味を持った方は参照していただきたい。

謝 辞

本取り組みを実施するにあたり、OSHMS 導入に向け多大なる御協力をいただいた O 市職員の方々、ファシリテータの役割を担っていただいた安全衛生委員会メンバーの方々、そして企画総務部職員厚生課の方々にご心より感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 中央労働災害防止協会. 厚生労働省指針に対応した労働安全衛生マネジメントシステム システム担当者の実務. 中央労働災害防止協会; 2007.
- 2) 渡辺裕晃, 丸山正治, 山口秀樹. 全職員を対象にストレス調査-結果と対策-. 自治体安全衛生研究. 2006; (29): 50-68.
- 3) 堤明純, 島津明人, 入交洋彦, 吉川徹, 川上憲人. 職業性ストレス調査票と職場環境改善のためのヒント集を活用した職場環境改善. 産業ストレス研究. 2006; 13(4): 211-217.
- 4) 吉川徹, 川上憲人, 小木和孝, 堤明純, 島津美由紀, 長見まき子, 島津明人. 職場環境改善のためのメンタルヘルスアクションチェックリストの開発. 産業衛生学雑誌. 2007; 49(4): 127-142.
- 5) 吉川徹, 小木和孝. 労働安全衛生マネジメントシステム (OSH-MS) への寄与としての参加型ストレス予防活動の役割. 産業ストレス研究. 2009; 16: 229-237.
- 6) 渡辺裕晃. 大牟田市におけるメンタルヘルスの一次予防対策. 労働の科学. 2010; 65(10): 598-603.
- 7) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 鶴田由紀子, 伊藤昭好, 原邦夫 堤明純, 山口秀樹, 丸山正治. 自治体職場への OSHMS 導入-導入途上の状況と今後の展望-. 労働安全衛生研究. 2010; 3: 11-16.
- 8) 日本産業衛生学会 産業保健活動評価委員会. 産業保健活動評価表(試行版). 産業衛生学雑誌. 2003; 45(4): A82-A85.
- 9) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 伊藤昭好, 原邦夫, 堤明純. 自治体職場における職場環境改善を通じた参加型ストレス対策の試み. 産業ストレス研究. 2010; 17: 287-95.
- 10) 横山和仁, 荒記俊一. POMS 手引, 金子書房, 東京; 1994.
- 11) 甲田茂樹. 職場で実践できる一次予防としてのメンタルヘルス対策の勧め. 労働衛生春秋. 2011; 4: 41-45.
- 12) GP 奨励賞 し尿収集作業での安全衛生教育用ビデオ教材の活用-O SHMS 導入作業を通じた参加型安全衛生活動の活用-. 産業衛生学雑誌. 2011; 53(Supl.): 330-331.
- 13) OSHMS の導入・定着による職場環境等の改善対策. (独)労働安全衛生総合研究所.

<http://www.jniosh.go.jp/results/2010/1122/index.html>.